

『マハープラティサラ（大随求陀羅尼經）』

におけるダラニの尊格化について

——宝思惟訳を中心に——

木村 秀成

1. 研究目的

本論は、筆者の木村（2016）を補完するものである。すなわち木村（2016）では、『マハープラティサラ（Mahāpratisarā 以下 MP とする）』所説のダラニが尊格化され、後期密教のマンダラについて説かれる『Niṣpannayogāvali（以下 NPY とする）』第 18 章（以下 NPY18 とする）パンチャラクシャーマンダラ（Pañcarakṣāmaṇḍala）のマハープラティサラ女尊（以下 MP 女尊とする）へ至った過程について検証した。先行研究において、十一面観音や不空罽索観音がダラニから尊格化され成立したことが明らかになっている。ダラニより尊格が形成される潮流がインド密教において認められていることから、NPY 所説の MP 女尊も同じようにダラニから尊格化し成立した可能性があるとして予想し検証を行った。

MP には、梵本一本、チベット語訳一本、不空訳と宝思惟訳の漢訳二本の存在が知られている。従来、先行研究の浅井（1988）において報告されているように、宝思惟訳が本經の初訳であり、この宝思惟訳の梵本原典から増広されて後に梵本、およびチベット語訳、不空訳の原本が成立したと予想されてきた。この増広された梵本、チベット語訳、不空訳は、主に二つのダラニ（D1、D2）、四つのマントラ（M1～4）、九つの説話、そして護符の作製法により構成されている。一方、宝思惟訳は梵本等の構成と一応対応しているものの、宝思惟訳では、D1 を分割して扱っていること、D2 が欠落し

ていること、また護符の作製方法等に違いがみられる。このことから宝思惟訳が先駆經典であり、のちに D2 等が増広され梵本、チベット語訳、不空訳が成立したと予想されてきた。

しかし、Hidas (2012) において宝思惟訳 (A.D.693) よりも古い 7 世紀前半に成立したとされるギルギット写本断片の校訂テキストが発表された。このギルギット写本断片の構成は、梵本、チベット語訳、不空訳の構成とほぼ一致する。よって宝思惟訳は、梵本の先駆經典ではなく、梵本と並存していた別系統の經典である可能性がでてきた。そのため木村 (2016) では、宝思惟訳から梵本 MP への直接的な発展の可能性は低いと判断し、またダラニの扱いに問題があるため、宝思惟訳を一旦考察の対象から除外した。

木村 (2016) では、MP 女尊が梵本のダラニから尊格化した可能性が高いことを明らかにし、特に九種の持物を持つ女尊の明確なイメージを読み取ることができる D2 において、尊格との高い関連性を確認し、NPY18 の MP 女尊はこの D2 を中心として尊格化したと推定した。さらにこの D2 の示す尊格に D1 の「与願印を持つ女尊よ」という用例に現れる与願印と、D1 の身色が黄色系統であると連想できる尊容が加わり、最終的に NPY18 の尊格が成立したと推定した。以上が前研究の概要である。

本論では、前研究で考察から外した宝思惟訳について特にダラニを中心に検証する。宝思惟訳の研究は少なく、わずかに浅井 (1988) においては梵藏漢を比較対照して成立過程を考察し、宝思惟訳の成立が一番早く、不空訳との間に経全体にわたって改編・増広されたとしている。宝思惟訳のダラニは全て漢字を用いて音写されているが、大正蔵では、ダラニについては底本 (高麗版) と他の資料の差が大きいので、校訂せずに底本のみが提示され、巻末に底本以外のダラニの音写だけが別出されている¹⁾。しかし、浅井 (1988) においても宝思惟訳の詳細な報告はなされず、底本と他版の音写ダラニの関係については全く触れられていない。そのため本校ではまず両者を正確に対照し検証する。また梵本等では D2 において尊格化が顕著にみられるが、宝思惟訳には D2 が存在しない。しかし梵本等の D2 以外のダラニにおいても尊格化の傾向がわずかであるが見られており、対応する宝思惟訳のダラニと対照し検証を行いたい。

2. 宝思惟訳『マハープラティサラ（大随求陀羅尼經）』について

(1) 概要

宝思惟訳は四段構成に分けることができる。まず第一段では随求ダラニを説くまでの因縁譚が語られる。耆闍崛山に在する釈尊を訪れた大梵天王が、衆生利益のために「随求即得大自在陀羅尼神呪」を説くことを申し出て、それを受けて釈尊がダラニの功德を説く。第二段では、八首のダラニが順に列挙され説かれる。第三段では、随求ダラニによって諸々の功德を得た説話が九つ語られる。そして最後の段には、八葉蓮華上に三叉戟・金剛杵・斧鉞・刀・劍・螺・羅索・火焰珠といったその尊格に対応する持物をシンボルとして配したマンダラを作壇し²⁾、護符を書写し加持する法や護符を持つ功德が説かれている。

以上、宝思惟訳を概観すると、経題にある「随求」の原語であるとされるプラティサラ (pratisara) が護符を意味しているように³⁾、本経では主にダラニを書写した護符によって様々な災厄などから身を守る法が説かれている。さらにこのダラニの功德はあらゆる現世利益に及ぶ⁴⁾。

(2) 文献資料

MP は、以下のように梵本一本、チベット語訳一本、漢訳二本（宝思惟訳、不空訳）の存在が知られている。さらに梵本の英訳、そして漢訳それぞれの和訳も存在する。梵本校訂テキストには Iwamoto (1938) と、Hidas (2012) の再校訂テキストが存在する。写本については、敦煌において十四本の宝思惟訳の写本が発見されている⁵⁾。

Hidas はギルギット写本断片の成立が 7 世紀前半であること、宝思惟訳の漢訳が 693 年であることから、MP の成立はおそらく 6 世紀頃の北インドであるとしている⁶⁾。

【Skt. 校訂テキスト】

- ・ Iwamoto (1938) : Iwamoto Y (岩本裕) . *Pañcarakṣā II* (Beiträge

zur Indologie, Heft 3) ,kyoto, 1938.

- Hidas (2012) : Hidas G. *Mahāpratisarā-Mahāvidyārājñī The Great Amulet, Great Queen of Spells. Introduction, Critical Editions, and Annotated Translation*, Śata-Piṭaka Series vol. 636, 2012.

【Tib. テキスト】

- デルゲ版：東北目録 No.561. [Pha. 117b4-138b5]
'Phags-pa rig-pa'i rgyal-mo so-sor 'brang-ba chen-mo.
Ārya-Mahāpratisarāvidyārājñī.
T. Jinamitra, Dānashīla, Ye-shes sde.
R. gZhun -nu dpal.
- 北京版：大谷目録 No.179. [119b4-141b4]

【漢訳】

- 『随求即得大自在陀羅尼神呪經』一卷、宝思惟訳（A.D.693）（大正蔵 vol.20,No.1154.）
和訳〔那須政隆監修「仏説随求即得大自在陀羅尼神呪經」（『続国訳秘密儀軌』七巻、国書刊行会、1975 年、pp.141-158）〕
- 『普遍光明清浄熾盛如意宝印心無能勝大明王大随求陀羅尼經』一卷、不空訳（A.D.746～771）（大正蔵 vol.20,No.1153.）
和訳〔塚本（1973）：塚本賢暁訳「国訳普遍光明焰鬘清浄熾盛如意宝印心無能勝大明王大随求陀羅尼經」巻上・下（『国訳秘密儀軌』十巻、国訳秘密儀軌編纂局、今泉誠文社、1973 年、pp.132-162）〕

【梵本英訳】

- Hidas (2012) : Hidas G. *Mahāpratisarā-Mahāvidyārājñī The Great Amulet, Great Queen of Spells. Introduction, Critical Editions, and Annotated Translation*, Śata-Piṭaka Series vol. 636, 2012.

宝思惟訳『随求即得大自在陀羅尼神呪經』（大正蔵 vol.20,No.1154.）は、高麗版を底本に宋・元・明版を対照して校訂されている。しかし八首のダラニに限って本文では高麗版の音写のみを表示し、経典が終わった後に明版のダラニの音写を宋・元版と対校し、改めて掲載している。

この高麗版と宋・元・明版のダラニを対照して還梵を試みた。さらに還梵テキストを Hidas (2012) の再校訂テキストと対照し、論末に「宝思惟訳『大随求陀羅尼經』(T.20.No.1154) ダラニ一覧」として示した。高麗版と宋・元・明版のダラニは一見差が大きいように思われたが、還梵し対照してみるとほぼ同一であることが確認できた。ただし宋・元・明版のダラニは高麗版のダラニに比較すると、26 箇所では sarva (一切の) や miri miri などの語句の増加が確認できた。よって宋・元・明版のダラニより高麗版のダラニの方が原型に近いと予想できるだろう。

(3) 『マハープラティサラー』所説のダラニ

梵本の MP では、表 1 で示したように二つのダラニ (D1、D2)、四つのマントラ (M1 ～ 4) が説かれる。一方、宝思惟訳では①根本ダラニ・②一切仏心呪・③一切仏心印呪・④灌頂呪・⑤灌頂印呪・⑥結界呪・⑦仏心呪・⑧心中心呪の八首のダラニが説かれる。このうち①、②、④のダラニは D1 に対応し、⑤、⑥、⑦、⑧のダラニはそれぞれ四句のマントラ (M1 ～ 4) に対応する⁷⁾。また③は梵本とチベット訳では欠落しており⁸⁾、前に述べたように宝思惟訳においてはダラニの尊格化の兆候が顕著に見られる D2 は説かれていない。それらの梵文の対応箇所は以下ようになる。

表 1：ダラニの対応表

宝思惟訳	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	欠
梵本	D1	D1	欠	D1	M1	M2	M3	M4	D2
Hidas (2012)	p.115 l3- p.126 l7	p.127 l1-l2	欠	p.127 l4-l6	p.151 l10	p.152 l1	p.152 l3	p.152 l4-5	p.177 l9- p.182 l1

3. ダラニの考察

(1) ダラニの尊格化

還梵した宝思惟訳の①根本ダラニと③一切仏心印呪では、梵本と同様に尊格化に結びつくと思われる女性形単数呼格の用例があり、以下にそれらを持つ・身色・その他に分類し、梵本と対照させてそれぞれダラニに現れる順に

提示する。

i ①根本ダラニの持物を示唆する句

	宝思惟訳の還梵	還梵和訳	梵本
(a)	kamale ⁹⁾	蓮華を持つ女尊よ	kamale
(b)	śrīvapurdharajayakamale ¹⁰⁾	美しい姿を持つ勝利の蓮を持つ女尊よ	jayakamale
(c)	sarvadevatāvaradāṅkuṣe ¹¹⁾	一切諸天の与願鉤を持つ女尊よ	varadāṅkuṣe
(d)	padmaviśuddhe ¹²⁾	蓮華清浄女尊よ	padmaviśuddhe
(e)	欠	欠	khadḡini (2 回)
(f)	vajravatī ¹³⁾	金剛杵を持つ女尊よ	vajravatī

ii ①根本ダラニの身色を示唆する句

(g)	prabhe ¹⁴⁾ (2 回)	輝ける女尊よ	prabhe (2 回)
(h)	suprabhaśuddhe ¹⁵⁾	美しい清浄女尊よ	suprabha- viśuddhe
(i)	piṅgali ¹⁶⁾ (2 回)	黄褐色の女尊よ	piṅgali (2 回)
(j)	jvālīni ¹⁷⁾	光明を持つ女尊よ	jvālīni

iii ①根本ダラニのその他を示唆する句

(k)	ratnamakuṭamālādhari ¹⁸⁾	宝冠と花環を持つ女尊よ	ratnamakuṭa- mālādhari
(l)	vicitraveśarūpadhāriṇī ¹⁹⁾	美しい衣服の姿の女尊よ	bahuvivīdha- vicitraveśa- dhāriṇī
(m)	caṇḍini ²⁰⁾	激怒せる女尊よ	caṇḍini
(n)	pavitramukhi ²¹⁾	神聖な顔を持つ女尊よ	pavitramukhi
(o)	jvalitaśīre ²²⁾	輝く頂きを持つ女尊よ	jvalitaśikhare
(p)	indre ²³⁾	インドラ女尊よ	indre
(q)	indravati ²⁴⁾	インドラを伴う女尊よ	indravati
(r)	brahme ²⁵⁾ (2 回)	ブラフマ女尊よ	brahme
(s)	maṇiviśuddhe ²⁶⁾	マニ宝珠清浄女尊よ	maṇiviśuddhe

iv ③一切仏心印呪の持物を示唆する句

(t)	vajravatī ²⁷⁾	金剛杵を持つ女尊よ	欠
-----	--------------------------	-----------	---

以上 (a) ～ (t) までの用例 20 のうち、(e) を除く 19 の用例は、梵本とほぼ同じ句が宝思惟訳においても存在する。またこれらのうち、(c) *sarvadevatāvaradāṅkuṣe* (一切諸天の与願鉤を持つ女尊よ)、(f) *vajravati* (金剛杵を持つ女尊よ) の二つの用例と (i) *piṅgali* (黄褐色の女尊よ) の用例は、NPY18 の MP 女尊との対応関係が確認される。すなわち NPY18 の MP 女尊は、金色であり、右手に与願印をなし、左手に金剛杵を持っている²⁸⁾。この宝思惟訳の三例は、NPY18 の尊容と矛盾せず関連がうかがえ、宝思惟訳のダラニ①から NPY18 の MP 女尊への尊格化もある程度予想できる。

また③一切仏心印呪においても同様に、(t) *vajravati* (金剛杵を持つ女尊よ) の用例は NPY18 の尊容と矛盾しない。③一切仏心印呪が梵本とチベット語訳で欠落してしまった理由は不明である。なおダラニ①・③以外の②・④～⑧のダラニにおいては、梵本と同様に尊格化を示唆する用例は見つからなかった。

このように宝思惟訳においても、梵本等と同様にダラニからの尊格化がある程度は認めることができると思われる。

(2) ダラニを構成する語句の増減

宝思惟訳の還梵したダラニと梵本のダラニを比較すると、53 箇所・119 語句で梵本ダラニを構成する語句の増加が見られた。また減少は、18 箇所・34 語句あった。この減少した 18 箇所のうち、語句の繰り返しの省略と「*mama ca*」「*māṃ mama ca*」の削除が 11 箇所を占め、これを除く減少箇所は 7 箇所・12 語句のみとなった。このように全体としてダラニを構成する語句の増加傾向が明らかに見られる。

これらの中で、重要と思われる特徴的な用例を以下に挙げる。

(Ⅰ) ①根本ダラニ

高麗版	毘質多羅 _{二合} 鞞沙波陀唎尼
宋元明版	毘質多囉鞞沙嚧波陀唎尼
還梵	vicitraveśaśarūpadhāriṇī ⁽²⁹⁾
還梵和訳	美しい衣服を着た女尊よ
skt	bahuvividhavicitraveśadhāriṇī
skt 和訳	沢山の様々な美しい衣服を着た女尊よ

(Ⅱ) ①根本ダラニ

高麗版	欠
宋元明版	欠
skt	rakṣa rakṣa mām sarvasattvānām cānāthān atrāṇān aparāyaṇān parimocaya mām sarvaduḥkhebhyaḥ
skt 和訳	守護せよ、私と一切衆生を守護せよ、貧しきものを、保護なき者を、保護を有せざる者を、私を完全に守護せよ

(Ⅲ) ①根本ダラニ

高麗版	欠
宋元明版	欠
skt	khaḍgini khaḍgini
skt 和訳	剣を持つ女尊よ、剣を持つ女尊よ

(Ⅳ) ①根本ダラニ

高麗版	欠
宋元明版	欠
skt	tārāya tārāya mām sarvasattvāṃś ca
skt 和訳	私と一切衆生を済度せよ、済度せよ

(Ⅴ) ①根本ダラニ

高麗版	欠
宋元明版	欠
skt	sarvavyādhibhyaḥ
skt 和訳	一切の疾病から

(VI) ①根本ダラニ

高麗版	欠
宋元明版	欠
skt	mārutāya svāhā mahāmārutāya svāhā agnaye svāhā
skt 和訳	風天に、スヴァーハー、大風天に、スヴァーハー、火天に、スヴァーハー

(VII) ①根本ダラニ

高麗版	欠
宋元明版	欠
skt	sarvaśatrūṇāṃ bhañjaya bhañjaya svāhā
skt 和訳	一切の怨敵を破れ、破れ、スヴァーハー

(VIII) ①根本ダラニ

高麗版	三牟達囉二合娑伽囉鉢唎演二合多波多羅伽伽那
宋元明版	三慕達囉娑伽囉鉢唎演多波波羅伽伽入聲那
還梵	samudraśakraparyantapātālagagana ³⁰⁾
還梵和訳	海と帝釈の辺際と地下と虚空において
skt	sarvatra
skt 和訳	一切所において

(I)、(III) の用例では、女尊の同じ語句に対する形容詞が加わっていることが確認できる。すなわち (I) では、vicitraveṣarūpadhāriṇi (美しい衣服を着た女尊よ) が bahuvidvidhavicitraveṣadhāriṇi (沢山の様々な美しい衣服を着た女尊よ) となり、尊容の表現が増加している。また (III) では、新たに khaḍgini khaḍgini (剣を持つ女尊よ、剣を持つ女尊よ) の句が加えられている。

(II)、(IV) では、一切衆生の救済の句が増広されたことが確認できる。

(V)、では sarvavyādhībhyaḥ (一切の疾病から) の句が加えられ、ダラニの功德として疾病を防ぐことを強調されている。

(VI)、はダラニによる svāhā を伴った諸天へ帰依の句の挿入が確認できる。また同様の用例がダラニ①の後半他にも多く見られた。

(VII)、の用例では、悪意のある敵を除去する句が加えられダラニの功德が

強調されている。

以上がダラニを構成する語句が増加された特徴的な用例であるが、減少された用例もあり、(Ⅷ) では、宝思惟訳において *samudraśakraparyantapātā lagagana-*（海と帝釈の辺際と地下と虚空において）だったものが、*sarvatra*（一切所）としてまとめられ、語句が整理縮小されている。

以上のように宝思惟訳のダラニと梵本のダラニとを比較した結果、若干ではあるが梵本ダラニを構成する語句の増加が確認できた。

4. まとめ

宝思惟訳では高麗版と宋・元・明版間のダラニの音写に大きな相違があったが、還梵して対照するとほぼ同一であることが確認できた。強いて言えばダラニを構成する語句の増加の数から高麗版が宋・元・明版より古いということも確認できた。また宝思惟訳から梵本へのダラニを構成する語句の増加傾向も確認できた。

還梵したダラニを検証した結果、梵本等に見られたダラニの尊格化の傾向が宝思惟訳のダラニにおいても確認できた。宝思惟訳は、MP の初訳であると推定されており、ギルギット写本などへ増広される前の原型に近い形を伝えている可能性があるだろう。もし宝思惟訳の原文が 6c 後半成立とされる MP の原型に近いならば、十一面観音や不空罽索観音から始まったインドにおけるダラニの尊格化の潮流が一步進み、宝思惟訳においてはダラニの創出の際に尊格のイメージ化が連動して行われた可能性がある。ダラニの文言から MP 女尊が尊格化したのか、もしくは感得した尊格のイメージをダラニ化させたのか、ダラニの尊格化についてどのようなプロセスがあったのかは慎重に検討する必要がある。しかし宝思惟訳では本文中に尊容は説かれずとも、ダラニと尊格の結びつきが確認でき、尊格化されていく過渡期にあった可能性があると言える。

【和文参考文献類】

- 浅井（1988）：浅井覚超「『大随求陀羅尼經』梵藏漢対照研究」（『密教文化』162、密教研究会、1988年、pp.104-91）
- Iwamoto（1938）：Iwamoto Y（岩本裕）. *Pañcaraksā II* (Beiträge zur Indologie, Heft 3) ,kyoto, 1938.
- 大塚（2013）：大塚伸夫『インド初期密教成立過程の研究』（春秋社、2013年）

【欧文参考文献類】

- Hidas（2012）：Hidas G. *Mahāpratisarā-Mahāvidyārājñī The Great Amulet, Great Queen of Spells. Introduction, Critical Editions, and Annotated Translation*, Śata-Piṭaka Series vol. 636, 2012.

【筆者発表論文】

- 木村（2016）：木村秀成「Niṣpannayogāvalī 第18章パンチャラクシャーマンダラの研究——ダラニからマハーブラティサラ女尊への尊格化を中心として——」（『豊山教学大会紀要』44、豊山教学振興会、2016年、pp.1-23）

註

- 1）vol.20.638 異読③「以下陀羅尼明本大異故別出於卷末 ,cf.p.642b」
- 2）八種のシンボルの多くが、日本の胎藏曼荼羅の随求菩薩の持物に通じることが指摘されている。（石田尚豊『曼荼羅の研究』東京美術、1975年、p.44）
- 3）Iwamoto（1938）p.4（解説）
- 4）大塚（2013）p.756
- 5）『大藏経対照目録 II 大正蔵・敦煌出土仏典対照目録 暫定第3版』国際仏教学大学院大学附属図書館、2015年、p.201。写本の対照は、また別の機会に行いたい。
- 6）Hidas（2012）p.21
- 7）大塚（2013）p.756では、ダラニ（①～⑧）と梵本 Iwamoto（1938）

との対応関係を示している。

8) 浅井 (1988) p.98

9) ①根本ダラニ、高麗版割注番号「三十四」。

10) 同上、「六十八」。

11) 同上、「七十」。

12) 同上、「七十二」。

13) 同上、「(百) 五十三」。

14) 同上、「五十九」。

15) 同上、「六十」。

16) 同上、「九十二」。

17) 同上、「(百) 三」。

18) 同上、「三十九」。

19) 同上、「四十」。

20) 同上、「四十六」。

21) 同上、「七十八」。

22) 同上、「八十一」。

23) 同上、「(百) 六十」。

24) 同上、「(百) 六十」。

25) 同上、「(百) 六十一」。

26) 同上、「(二百) 三十七」。

27) ③一切佛心印呪、高麗版割注番号「二」。

28) 木村 (2016) p.5

29) ①根本ダラニ、高麗版割注番号「四十」。

30) 同上、「九十七」。

「宝思惟記『大随求陀羅尼經』」(T.20, No.1154)ダラニ一覽」

①根本ダラニ

高麗(K.)	那牟	婆藍巴他吒多囉	那牟	勿陀哩摩底祇羅反上	毘羅	嚩哩 ^四	毘末 ^錢	闍 ^五 耶 ^六 嚩	折囉	二時囉	無我反合	囉嗎 ^六
宋元明(S.G.M)	那摩薩婆他他哆南	那謨	勿陀達摩底祇羅	毘羅反上	毘羅入聲	嚩哩 ^四	毘末 ^錢	闍 ^五 耶 ^六 嚩	什囉	二時囉	無我反合	囉嗎 ^六
悉梵	namaḥ sarvatathagatānām	namaḥ sarvatathagatānām	buddhadharmaśāghebyaḥ	on vipulaḅarthe	on vipulaḅarthe	vimala	jayaḅarthe	vajra-	jayaḅarthe	vajra-	jayaḅarthe	jayaḅarthe
Skt.	namaḥ sarvatathagatānām	namaḥ sarvabuddhabodhisattvasanghobyah	on vipulaḅarthe	on vipulaḅarthe	vipulamale	vimala	jayaḅarthe	vajra-	jayaḅarthe	vajra-	jayaḅarthe	jayaḅarthe

[illegible][illegible]

逆曳毘尼逝曳 ^{一五}	揭婆三婆囉尼 ^{二五} 私明	以明 ^{二七}	三曼多迦明沙 ^{五二八}
社曳毘尼社 ^{二三}	揭婆三婆囉尼 ^{二五} 死哩	以哩 ^{二六}	三曼多迦明沙 ^{二七}
jaye vijaye	garbhāsmabharāṇi	ghrī	śamanīkāraṇi
jaye vijaye	garbhāsmabharāṇi	ghrī	śamanīkāraṇi

見折	之別 ^{九十四}	嚙 ^{九十五}	多囉 ^{九十六}	摩訶倍迦 ^{九十七}	三達連 ^{九十八}	二合安伽囉鉢鉢演 ^{九十九}	多波多羅伽加 ^{一百}	那 ^{一百一十}	曼底那 ^{一百一十一}	九十八
見折	嚙 ^{九十四}	巴囉 ^{九十五}	多囉 ^{九十六}	摩訶那曼 ^{九十七}	三慕連 ^{九十八}	安伽囉鉢鉢利演 ^{九十九}	多波跋羅伽伽加 ^{一百}	那 ^{一百一十}	二合曼帝那 ^{一百一十一}	九十七
見折	縛 ^{九十三}	巴囉 ^{九十四}	縛 ^{九十五}	摩訶那曼 ^{九十六}	三慕連 ^{九十七}	安伽囉鉢鉢利演 ^{九十八}	多波跋羅伽伽加 ^{九十九}	那 ^{一百}	二合曼帝那 ^{一百一十}	九十七
vicare	tara	tara	tārayau māṃ	mahabhaya	samudra-	sakrapayun-	tapatidagagana-	samanena	samanena	disambandha
vicare	tara	tara nāgavlokiṃ	tāraya māṃ sarvasattvaṃ ca bhagavatī śaṣamahabhaiyebhyaḥ	ca	[nana]					
vicare	tara	tara nāgavlokiṃ	tāraya māṃ sarvasattvaṃ ca bhagavatī śaṣamahabhaiyebhyaḥ							

3 上 *for* 上

敗折囉 _{二合} 時 _{三合} 囉毘輪 _{五提} 九十九 部喇 部喇 揭婆伐底 _{丁補反} 揭婆毘輪達爾 _一 器具史 _{二合} 三哺囉尼 _二 闍羅 遮羅 闍栗爾 _三
伐折入 _{入聲} 囉什 _{三合} 囉毘 囉毘 羣 提 _{九十八} 步喇 步喇 _{九十九} 揭婆伐底 揭婆肥輪達爾 _{一百} 器具 _{初九切} 二合 三哺囉尼 _一 者羅 者羅 遮栗爾 _二
vajrajālavāsuddhe vajrajālavāsuddhe bhuri bhuri garbhavati garbhavīśodhani kuk(ś)saṃpūrāpi cala cala jvala jvala jvala jvalini jvalini

鉢囉 _{二合} 伐喇沙都 提婆 _{無韻反} 娑曼帝那 _四 姪 毘 喻 _{二合} 陀計那 _五 阿蜜囉 _{二合} 多伐喇沙 _{二合} 尼 _六 提婆 _{多列} 阿婆多囉尼 _七 阿里說遮都 迷 八
鉢囉 伐囉沙觀 提婆 三曼帝那 _三 姪 _{韻切} 鰲 _{韻切} 度計那 _四 阿蜜囉 多伐囉沙 尼 _五 提伐多阿伐多囉尼 _六 阿里說者觀 曼 _{莫甘切} 七
pravarṣatu devaḥ samantena divyodakena anṛtaavarṣaṇi devatāvatātrāpi abhiṣicatu mān
varṣatu devaḥ samantena divyodakena anṛtaavarṣaṇi devatāvatātrāpi abhiṣicatu mān sarvasattvāṇs ca sugatavaravacan-

阿蜜囉 _{二合} 多跋囉婆哺囉 _九 噯 _又 噯 _又 麼摩 _{莫平} 寫 _十 囉婆相囉 _{二合} 十一 囉婆陀 _平 十二 囉婆婆 _重 曳 _重 那 _{十三} 囉蒲烏 _{二合} 波達囉 _{二合} 陀 _{十四} 囉蒲烏 _{二合} 鉢囉 _{二合} 祇 _{祇反} 那 _{十五}
阿蜜囉 多婆囉婆哺囉 _八 噯 _又 噯 _又 麼摩 _{莫平} 寫 _九 囉拔相囉 _十 囉拔陀 _{十一} 囉婆婆 曳 _{韻切} 十二 囉菩烏 波達囉 陀 _{十三} 囉菩烏 鉢囉 _{祇反} 那 _{十四}
anṛtaavarapause rakṣa rakṣa mama sarvasattvāṇs ca sarvatra sarvada sarvabhayeḥyaḥ sarvopadraveḥyaḥ sarvopasargeḥyaḥ
anṛtaavarapause rakṣa rakṣa mama sarvasattvāṇs ca sarvatra sarvada sarvabhayeḥyaḥ sarvopadraveḥyaḥ sarvopasargeḥyaḥ sarvavyādhi-

囉婆突瑟吒 _{二合} 婆 _三 曳 毘相寫 _{十六} 囉婆羯利羯羅訶 _{十七} 毘揭囉 _{二合} 阿毘婆陀 _{十八} 突囉 乏 _{二合} 鉢那 _{二合} 十九 突囉 _{二合} 囉蜜多 _列 阿芒刈 略夜 _平 二合 二跋波毘那設爾 _{二十一}
薩婆突瑟吒 婆耶咤 _{十五} 毘相寫 _{十六} 薩婆羯利羯羅訶 _{十七} 毘揭羅 呵毘喃陀 _{十八} 突囉 _{群合} 勿乏 _三 鉢那 _{十九} 囉突 囉蜜多 阿芒刈 囉 _{諸般切} 二十 跋波毘那設爾 _{二十一}
sarvadustabhayaḥbhīṣya sarvakalikalāha- sarvakalikalāha- duḥsvapna- durnimittāmaṅgalya- papavinasāni
bhīyaḥ sarvadustabhayabhīṣya sarvakalikalāha- sarvakalikalāha- duḥsvapna- durnimittāmaṅgalya- papavīśodhani

⁵ sarvadustabhaya° : S.G.M. sarvadustabhayahe°? (薩婆突瑟吒婆耶那);

⁶ durni° : S.G.M. rdumi° (哩突囉) for durni° (突囉囉)

囉婆袒他揭	多韻囉 ^{二合} 歌上囉 ^引 地瑟恥 ^{二合} 底	莎呵 ^{五十八}	囉婆袒他揭多 三昧哪悉弟莎呵 ^{五十九}
薩婆袒他揭	入聲多韻哩 駄 耶 地瑟恥 帝	莎呵 ^{五十八}	薩婆袒他揭入聲三昧耶悉提莎呵 ^{五十九}
sarvatahagatahdaya ⁴ dhīṣṭhite		svāhā	sarvatahagatasamayāsiddhe svāhā
sarvatahagatahdayadhīṣṭhiraḥdaye		svāhā	sarvatahagatasamayāsiddhe svāhā

印姪囉 ^{二合} 底	印陀羅 ^{二合} 底 ^{丁翻反}	印陀囉 ^{二合} 毘哪 ^{二合} 婆盧古底	莎呵 ^{六十} 勃囉 ^{二合} 薩迷 勃囉 ^{二合} 薩迷 勃囉 ^{二合} 摩二合地喻 ^{二合} 瑟底	莎呵 ^{六十一}
印姪囉	印陀囉 伐 底	印陀囉 瓢 婆盧古帝	莎呵 ^{六十} 勃囉 薩迷 勃囉 薩迷 勃囉 同摩 地喻 瑟帝	莎呵 ^{六十一}
indre	indravati	indravyavalokite	svāhā brahmē	svāhā
indre	indravati	indravyavalokite	svāhā brahmē	svāhā

鼻瑟努 ^{鼻短反二合}	那摩悉吉囉 ^{二合} 底	莎呵 ^{六十二} 摩醯濕縛囉 ^{二合} 那摩悉吉囉 ^{二合} 底	莎呵 ^{六十三} 伐折囉 ^{二合} 陀囉跋折囉波尼婆羅毘嚧 ^{二合} 耶 ^引 阿地瑟恥底	莎呵 ^{六十四}
鼻瑟努	那摩悉吉囉 帝	莎呵 ^{六十二} 摩醯濕縛囉 那摩悉吉囉 帝	莎呵 ^{六十三} 伐折囉 達 囉伐折囉跋尼婆羅肥喇 耶 地瑟恥帝	莎呵 ^{六十四}
viṣṇumaskṛte	svāhā	mahēśvaranumaskṛte	svāhā vajra	svāhā
viṣṇumaskṛta	svāhā	mahēśvaravanditopajātāyai	svāhā vajra-	svāhā

跌明 ^{二合} 底	丁翻反囉瑟吒囉 ^{三合} 哪	莎呵 ^{六十五} 毘嚧茶迦耶莎呵 ^{六十六} 毘嚧波叉哪	莎呵 ^{六十七} 裴室囉 ^{二合} 滿拿 ^{尾何反} 哪	莎呵 ^{六十八}
跌明 底	囉瑟吒囉 耶	莎呵 ^{六十五} 毘嚧毛迦耶莎呵 ^{六十六} 毘嚧摩叉耶	莎呵 ^{六十七} 裴室囉 伐拿 耶	莎呵 ^{六十八}
dhīrīrāṣṭrāya	svāhā	virūḍhakāya svāhā	virūḍhāya	svāhā
dhīrarāṣṭrāya	svāhā	virūḍhakāya svāhā	virūḍhāya	svāhā

⁸ ʔvā° : K. °rā° (囉)

⁹ ʔva° : K. °ma° (滿)

折之列 ^レ 咄 ^レ 囉 ^レ 摩訶囉闍那憐悉吉 ^{屈何夏}	囉 ^二 摩訶囉闍那憐悉吉 ^一	多耶	莎阿 ^{六十九} 婆嚧拏 ^{屈何夏}	莎阿 ^{七十}	耶莎阿 ^{七十} 闍摩布閣那摩悉吉 ^{屈何夏}	囉嚧拏	莎阿 ^{七十二}
catu(r)-	mahārājanamaskṛāya	svāhā	varuṇāya	svāhā	[yamaṇapūjanamaskṛāya]	[svāhā]	[varuṇāya svāhā]
catu-	mahārājanamaskṛāya	svāhā	yaṇāya	svāhā	yamaṇapūjanamaskṛāya	svāhā	varuṇāya svāhā
catu-	mahārājanamaskṛāya	svāhā	yaṇāya	svāhā	yamaṇapūjanamaskṛāya	svāhā	varuṇāya svāhā

那伽毘盧枳多耶莎呵 _{七十一}	提婆揭囉	瓢	莎呵 _{七十二}	那伽揭囉瓢	莎呵 _{七十三}	婆叉揭囉瓢	莎呵 _{七十四}
娜伽毘盧枳多耶莎呵 _{七十二}	提婆揭囉	女計切瓢	莎呵 _{七十四}	那伽揭囉瓢	莎呵 _{七十五}	婆叉揭囉瓢	莎呵 _{七十六}
那伽毘盧枳多耶莎呵 _{七十三}	devagapēbyah	svāhā	nāgagapēbyah	svāhā	yaksagapēbyah	svāhā	
那伽毘盧枳多耶莎呵 _{七十四}	devagapēbyah	svāhā	nāgagapēbyah	svāhā	yaksagapēbyah	svāhā	raṁsagapēbyah svāhā

彼羅婆娑揭彌那	莎 ^{七十五}	阿蘇囉揭彌那	莎 ^{七十七}	提羅婆娑揭彌那	莎 ^{七十八}	加喲茶	揭彌那	莎 ^{七十九}	緊那囉揭彌那	莎 ^{八十一}	摩呼囉揭彌那	莎 ^{八十二}	摩呼囉揭彌那	莎 ^{八十三}	嚩囉安均彌那	莎 ^{八十四}
gandharvaganebyah svāhā		aśvagnnebyah svāhā		garudaganebyah svāhā		garudaganebyah svāhā		kinnaraganebyah svāhā		mahoraganebyah svāhā		mahoraganebyah svāhā		rākṣa'sagenebyah svāhā		

[illegible]

¹⁰ rāksa° : M. krāksa° (褐囉刹)

¹¹ pretebhayah : M. pretyebhyah (閑噤底曳瓢)

摩尼跋達囉 _{二合} 哪	莎呵 _二 百	布	唵拏 _{二合} 陀囉 _{二合} 哪	莎呵 _一	摩訶迦羅耶	莎呵 _二	摩底 _丁 囉反哩 _{二合} 伽拏 _{二合} 陀囉 _{二合} 哪	莎呵 _三	藥器史 _{二合} 尼	囉	莎呵 _四
麼尼跋達囉	耶	莎呵 _一	布	陀囉	耶	莎呵 _二	摩訶迦羅耶	莎呵 _三	藥器 _初 尼	南	莎呵 _五
mātibhadraya	svāhā	pūrabhadraya	svāhā	mahakālaya	svāhā	mārgaṇḍāya	svāhā	yak(śi)ṇināp	svāhā		svāhā
mātibhadraya	svāhā	pūrabhadraya	svāhā	mahakālaya	svāhā	mārgaṇḍāya	svāhā	yakṣiṇināp	svāhā		svāhā

羯囉利思囉	莎呵 _五	阿迦迦 _去 者摩底 _丁 囉反 _{二合} 囉	莎呵 _六	三姥達囉 _{二合} 爾婆悉 _{二合} 囉	莎呵 _七	羯囉底 _丁 囉反 _{二合} 囉	囉	莎呵 _八			
囉利思南	莎呵 _六	阿迦 _舍 摩底哩 _請 反 _感 切	莎呵 _七	三暮達囉	爾婆悉 _囉 請	莎呵 _八	易囉底 _丁 以切 _囉	折	囉	囉	莎呵 _九
rākṣa ¹⁴ śināp	svāhā	ākāśamātrīpāp	svāhā	samudraṇivāśinīnāp	svāhā	rā ¹⁵ trīca(r)a(r)a(pāp)			svāhā		svāhā
rākṣaśināp	svāhā	ākāśamātrīpāp	svāhā	samudraṇivāśinīnāp	svāhā	rātīrkarāpāp			svāhā		svāhā

地	婆娑折 _之 列反 _囉 囉 _感 反 _下 同	莎呵 _九	底 _丁 囉反 _{二合} 囉	莎呵 _十	散地哪 _{二合} 折 _之 列反 _下 同囉	莎呵 _{十一}	阿 _烏 囉折 _之 列反 _囉	囉	莎呵 _{十二}		
地 _入 婆娑折	囉	莎呵 _十	底 _丁 以切 _囉	囉	地 _發 那切	折	囉	囉	莎呵 _{十三}		
divasacār(ā)pāp ¹⁶	svāhā	trisaṃpdyāca(r)a(r)a(pāp)	svāhā	velīca(r)a(r)a(pāp)	svāhā	avelīca(r)a(r)a(pāp)			svāhā		svāhā
divasacārāpāp	svāhā	trisaṃpdyācārāpāp	svāhā	velīcārāpāp	svāhā	avelīcārāpāp			svāhā		svāhā

揭	婆折之列反囉	莎呵 _{十三}	揭婆散多囉 _已	呼盧	呼盧	莎呵 _{十四}	唵	莎呵 _{十五}	囉婆	莎呵 _{十六}	非復	莎呵 _{十七}	非鳴	非復	呵 _{十八}	質致 _上	質致 _上	莎呵 _{十九}
揭 _入 婆娑折	囉	莎呵 _{十四}	揭婆 _囉 多囉 _已	虎嚕	虎嚕	莎呵 _{十五}	唵	莎呵 _{十六}	薩婆步	莎呵 _{十七}	步嚕	莎呵 _{十八}	菩路	步嚕	莎呵 _{十九}	質致	質致	莎呵 _{二十}
garbhacārebbhāḥ	svāhā	garbhāsaṃpāhāraṇi	hulu	hulu	hulu	svāhā	oṃ	svāhā	sarva ¹⁷	svāhā	bhuvah	svāhā	bhūr bhuvah	svāhā	ciṭi	ciṭi	svāhā	
garbhārebbhāḥ	svāhā	garbhāsaṃpāhāraṇi	svāhā	hulu	hulu	hulu	oṃ	svāhā	svāḥ	svāḥ	bhūḥ bhūḥ	svāhā	bhūr bhuvah	svāhā	ciṭi	ciṭi	svāhā	

¹⁴ rākṣa^o : K. krākṣa^o (羯囉利)

¹⁵ K. karā^o (揭囉) : S.G.M. karā^o. (易囉)

¹⁶ divasacārāpāp : M. divasacārāp

¹⁷ sarva : S.G.M. sarvabhūḥ (薩婆步)

費致	莎 _{二一}	駝囉尼	莎 _{二二}	惡敗爾	莎 _{二三}	帝殊上婆布	莎 _{二四}	只里	莎 _{二五}	從里	莎 _{二六}
費致	莎 _{二七}	夥羅尼	莎 _{二八}	阿耆爾	莎 _{二九}	帝殊	婆布	只哩	莎 _{三〇}	爾哩哩哩哩	莎 _{三一}
viṭi	svalha	dharapi	svalha	agni	svalha	tejovapu	svalha	cili	svalha	[niri niri svalha]	sili svalha
viṭi	svalha	dharapi	svalha	agni	svalha	tejovapu	svalha	cili	svalha	sili	svalha

[illegible]

諸婆	莎阿三十一	悉毗二合婆悉毗二合婆	瞿陀	莎阿三十二	瞿陀	莎阿三十三	頻陀	莎阿三十四	畔陀	莎阿三十五	牟誨耶	牟誨耶	莎阿三十六
諸婆	莎阿三十二	悉毗三合婆悉毗三合婆	瞿陀	莎阿三十三	瞿陀	莎阿三十四	頻陀	莎阿三十五	畔陀	莎阿三十六	牟誨耶	牟誨耶	莎阿三十七
諸婆	莎阿三十三	悉毗四合婆悉毗四合婆	瞿陀	莎阿三十四	瞿陀	莎阿三十五	頻陀	莎阿三十六	畔陀	莎阿三十七	牟誨耶	牟誨耶	莎阿三十八
諸婆	莎阿三十四	悉毗五合婆悉毗五合婆	瞿陀	莎阿三十五	瞿陀	莎阿三十六	頻陀	莎阿三十七	畔陀	莎阿三十八	牟誨耶	牟誨耶	莎阿三十九
諸婆	莎阿三十五	悉毗六合婆悉毗六合婆	瞿陀	莎阿三十六	瞿陀	莎阿三十七	頻陀	莎阿三十八	畔陀	莎阿三十九	牟誨耶	牟誨耶	莎阿四十
諸婆	莎阿三十六	悉毗七合婆悉毗七合婆	瞿陀	莎阿三十七	瞿陀	莎阿三十八	頻陀	莎阿三十九	畔陀	莎阿四十	牟誨耶	牟誨耶	莎阿四十一
諸婆	莎阿三十七	悉毗八合婆悉毗八合婆	瞿陀	莎阿三十八	瞿陀	莎阿三十九	頻陀	莎阿四十	畔陀	莎阿四十一	牟誨耶	牟誨耶	莎阿四十二
諸婆	莎阿三十八	悉毗九合婆悉毗九合婆	瞿陀	莎阿三十九	瞿陀	莎阿四十	頻陀	莎阿四十一	畔陀	莎阿四十二	牟誨耶	牟誨耶	莎阿四十三
諸婆	莎阿三十九	悉毗十合婆悉毗十合婆	瞿陀	莎阿四十	瞿陀	莎阿四十一	頻陀	莎阿四十二	畔陀	莎阿四十三	牟誨耶	牟誨耶	莎阿四十四
諸婆	莎阿四十	悉毗十一合婆悉毗十一合婆	瞿陀	莎阿四十一	瞿陀	莎阿四十二	頻陀	莎阿四十三	畔陀	莎阿四十四	牟誨耶	牟誨耶	莎阿四十五
諸婆	莎阿四十一	悉毗十二合婆悉毗十二合婆	瞿陀	莎阿四十二	瞿陀	莎阿四十三	頻陀	莎阿四十四	畔陀	莎阿四十五	牟誨耶	牟誨耶	莎阿四十六
諸婆	莎阿四十二	悉毗十三合婆悉毗十三合婆	瞿陀	莎阿四十三	瞿陀	莎阿四十四	頻陀	莎阿四十五	畔陀	莎阿四十六	牟誨耶	牟誨耶	莎阿四十七
諸婆	莎阿四十三	悉毗十四合婆悉毗十四合婆	瞿陀	莎阿四十四	瞿陀	莎阿四十五	頻陀	莎阿四十六	畔陀	莎阿四十七	牟誨耶	牟誨耶	莎阿四十八
諸婆	莎阿四十四	悉毗十五合婆悉毗十五合婆	瞿陀	莎阿四十五	瞿陀	莎阿四十六	頻陀	莎阿四十七	畔陀	莎阿四十八	牟誨耶	牟誨耶	莎阿四十九
諸婆	莎阿四十五	悉毗十六合婆悉毗十六合婆	瞿陀	莎阿四十六	瞿陀	莎阿四十七	頻陀	莎阿四十八	畔陀	莎阿四十九	牟誨耶	牟誨耶	莎阿五十
諸婆	莎阿四十六	悉毗十七合婆悉毗十七合婆	瞿陀	莎阿四十七	瞿陀	莎阿四十八	頻陀	莎阿四十九	畔陀	莎阿五十	牟誨耶	牟誨耶	莎阿五十一
諸婆	莎阿四十七	悉毗十八合婆悉毗十八合婆	瞿陀	莎阿四十八	瞿陀	莎阿四十九	頻陀	莎阿五十	畔陀	莎阿五十一	牟誨耶	牟誨耶	莎阿五十二
諸婆	莎阿四十八	悉毗十九合婆悉毗十九合婆	瞿陀	莎阿四十九	瞿陀	莎阿五十	頻陀	莎阿五十一	畔陀	莎阿五十二	牟誨耶	牟誨耶	莎阿五十三
諸婆	莎阿四十九	悉毗二十合婆悉毗二十合婆	瞿陀	莎阿五十	瞿陀	莎阿五十一	頻陀	莎阿五十二	畔陀	莎阿五十三	牟誨耶	牟誨耶	莎阿五十四
諸婆	莎阿五十	悉毗二十一合婆悉毗二十一合婆	瞿陀	莎阿五十一	瞿陀	莎阿五十二	頻陀	莎阿五十三	畔陀	莎阿五十四	牟誨耶	牟誨耶	莎阿五十五
諸婆	莎阿五十一	悉毗二十二合婆悉毗二十二合婆	瞿陀	莎阿五十二	瞿陀	莎阿五十三	頻陀	莎阿五十四	畔陀	莎阿五十五	牟誨耶	牟誨耶	莎阿五十六
諸婆	莎阿五十二	悉毗二十三合婆悉毗二十三合婆	瞿陀	莎阿五十三	瞿陀	莎阿五十四	頻陀	莎阿五十五	畔陀	莎阿五十六	牟誨耶	牟誨耶	莎阿五十七
諸婆	莎阿五十三	悉毗二十四合婆悉毗二十四合婆	瞿陀	莎阿五十四	瞿陀	莎阿五十五	頻陀	莎阿五十六	畔陀	莎阿五十七	牟誨耶	牟誨耶	莎阿五十八
諸婆	莎阿五十四	悉毗二十五合婆悉毗二十五合婆	瞿陀	莎阿五十五	瞿陀	莎阿五十六	頻陀	莎阿五十七	畔陀	莎阿五十八	牟誨耶	牟誨耶	莎阿五十九
諸婆	莎阿五十五	悉毗二十六合婆悉毗二十六合婆	瞿陀	莎阿五十六	瞿陀	莎阿五十七	頻陀	莎阿五十八	畔陀	莎阿五十九	牟誨耶	牟誨耶	莎阿六十
諸婆	莎阿五十六	悉毗二十七合婆悉毗二十七合婆	瞿陀	莎阿五十七	瞿陀	莎阿五十八	頻陀	莎阿五十九	畔陀	莎阿六十	牟誨耶	牟誨耶	莎阿六十一
諸婆	莎阿五十七	悉毗二十八合婆悉毗二十八合婆	瞿陀	莎阿五十八	瞿陀	莎阿五十九	頻陀	莎阿六十	畔陀	莎阿六十一	牟誨耶	牟誨耶	莎阿六十二
諸婆	莎阿五十八	悉毗二十九合婆悉毗二十九合婆	瞿陀	莎阿五十九	瞿陀	莎阿六十	頻陀	莎阿六十一	畔陀	莎阿六十二	牟誨耶	牟誨耶	莎阿六十三
諸婆	莎阿五十九	悉毗三十合婆悉毗三十合婆	瞿陀	莎阿六十	瞿陀	莎阿六十一	頻陀	莎阿六十二	畔陀	莎阿六十三	牟誨耶	牟誨耶	莎阿六十四
諸婆	莎阿六十	悉毗三十一合婆悉毗三十一合婆	瞿陀	莎阿六十一	瞿陀	莎阿六十二	頻陀	莎阿六十三	畔陀	莎阿六十四	牟誨耶	牟誨耶	莎阿六十五
諸婆	莎阿六十一	悉毗三十二合婆悉毗三十二合婆	瞿陀	莎阿六十二	瞿陀	莎阿六十三	頻陀	莎阿六十四	畔陀	莎阿六十五	牟誨耶	牟誨耶	莎阿六十六
諸婆	莎阿六十二	悉毗三十三合婆悉毗三十三合婆	瞿陀	莎阿六十三	瞿陀	莎阿六十四	頻陀	莎					

[illegible]

¹⁸ dā° : S.G.M. va° (毘)

諾	利多囉 _{二合} 囉 _{一合}	耶	莎呵 _四 十	室央 _{無韻反}	莎呵 _四 十一	扇底 _{丁韻反} 曳	莎呵 _四 十二	蘇囉 _{無我反} 二合悉底 _{丁韻反} 咍二合也爾	莎呵 _四 十三			
諾	能得切利相囉	耶	莎呵 _四 十二	濕央	莎呵 _四 十三	扇底	曳	莎呵 _四 十四	蘇伐	悉底 _{丁也切}	爾	莎呵 _四 十五
nakṣatrayaḥ	svāhā	śive	svāhā	śāntiye	śānti	svāhā	svastiyayane	svāhā				
nakṣatrebbhyaḥ	svāhā	śive	svāhā	śānti	śānti	svāhā	svastiyayane	svāhā				

施梵 _{無韻反} 二合羯唎	扇底 _{長底} 丁韻反羯唎	布	瑟致 _{二合} 咍喇駄 _{重二合} 爾	莎呵 _四 十四	室唎 _{二合} 羯哩	莎呵 _四 十五	室唎 _{二合} 耶波唎 _{二合} 默爾	莎呵 _四 十六		
始梵	羯唎	扇夜 _{丁以切} 羯	布 _{無反切} 瑟致	伐栗駄	爾	莎呵 _四 十六	室唎	耶伐栗	默爾	莎呵 _四 十八
śivamkari	śāntika(ri)	puṣṭivardhani	svāhā	śrīkari	śrīyavardhani	svāhā	śrīvardhani	svāhā		
śivamkari	śāntika(ri)	puṣṭikari	svāhā	śrīkari	śrīvardhani	svāhā	śrīvardhani	svāhā		

室唎 _{二合} 囉時囉 _{二合} 羅爾	莎呵 _四 十七	耶牟支	莎呵 _四 十八	摩囉支	莎呵 _四 十九	轉伽伐底 _{丁韻反}	莎呵 _二 百五十
室唎	耶什囉	囉爾	莎呵 _四 十九	耶牟支	莎呵 _五 十	摩囉支	莎呵 _五 十二
śrīyavālini	svāhā	namuci	svāhā	maruci	svāhā	vegavati	svāhā
śrīyālini	svāhā	namuci	svāhā	maruci	svāhā	vegavati	svāhā

右已前是根本咒	
已上二百五十二句根本咒	

②一切佛心呪

K.	唵	嚩婆担他揭	多慕唎 ^{二合} 帝 ^二	鉢囉 ^{二合}	筏囉揭	多婆 ^重 曳 ^三	奢摩演都	麼麼 ^{基甲}	寫	嚩婆跋閉 ^{囉四}	莎悉底 ^{丁囉反二合囉}
S.G.M.	唵	薩婆担他揭 ^{入聲}	多喜唎	帝 ^二	鉢囉 ^{基甲} 鉢囉 ^{基甲} 囉 ^{基甲} 囉 ^{基甲}	多婆 ^重 曳 ^三	舍摩般演	麼麼 ^{基甲}	寫	薩婆婆曳 ^{囉四}	嚩婆婆曳 ^{囉五}
還梵	om	sarvatathāgātūrte			pravarigaṇḍabhaye		śamayantu	mama	ca	sarvapaṇḍhyah	[sarvabhayeḥyah]
Skt.	om	sarvatathāgātūrte			pravarigaṇḍabhaye		śamayasva	me	bhagavati	sarvapaṇ	svasir

婆 ^{重二合} 筏都 ^五	牟支	牟支	毘牟支 ^六	遮唎	遮囉 ^{隔七}	揭帝 ^八	婆 ^重 陀 ^囉 囉 ^囉	步 ^長 地 ^十	步 ^重 陀 ^囉 囉 ^囉	步 ^重 陀 ^囉 囉 ^囉	耶 ^重 耶 ^重	勃地 ^重 利 ^二
婆	伐 ^{觀六}	牟支	牟支 ^七	毘牟支 ^八	折囉 ^囉	揭帝 ^九	婆耶耶 ^囉 囉 ^囉	步 ^重 地 ^十	步 ^重 地 ^十	耶 ^重 耶 ^重	耶 ^重 耶 ^重	勃地 ^重 利 ^二
bhāvatu		muni	muni	vimuni	cari	calani	bhayaṇar ²⁰ raṇi	bodhi	bodhi	bodhaya	bodhaya	buddhili
bhāvatu	mama	sarvasaṭvānāp	ca	muni	muni	vimuni	cari	calane	bhaya-vigate	bhayaṇaraṇi	bodhaya	buddhili

嚩婆担他揭多頌唎 ^{二合} 駄 ^上 耶 ^{十三} 樹瑟 ^{離二合十四}	莎呵 ^{十五}
薩婆担他揭多咽哩	駄 ^上 耶 ^{十四} 樹瑟 ^離
sarvatathāgātadyajuste	svāha
sarvatathāgātadyajuste	svāha

¹⁹ svastir : S.G.M. svastikar (莎悉底曷囉)
²⁰ bhayaharaṇi : K. bhadararāṇi (婆陀囉囉)

③一切佛心印呪

K.	唵- 跋折囉 _{二合} 跋底 _{丁翻反} 二 跋折囉 _{二合} 鉢囉 _{二合} 底 _{丁翻反} 瑟恥 _{二合} 多 輸去提三 怛他揭多姥陀囉 _{二合} 四 地瑟訖那地瑟恥 _{二合} 底 莎呵五
S.C.M.	唵- 伐舌囉 伐底 _{丁以切} 二 伐舌囉 鉢喇 底 瑟恥 帝 提三 怛他揭多暮陀囉 _四 地瑟訖那地瑟恥 帝 莎呵五
還梵	om vajravatī vajra- pratiṣṭhate śuddhe tatāgataanudrā- dhīṣṭhānādhiṣṭite svāhā
Skt.	欠

④灌頂呪

K.	唵- 牟爾 牟爾 牟爾 跋囉 阿毘 訖者都 咩三 囉婆怛他揭多 摩 _{引摩} 葛 _四 囉婆芝他耶 _{二合} 毘囉 闍 _{半五}
S.C.M.	唵- 姥爾 姥爾 姥爾 伐囉 阿毘 訖者覩 迷三 薩婆怛他揭多 曼 _{莫甘切} 麼 _{其甲} 葛 _四 薩婆芝地耶 毘囉 _{疏禮切} 維五
還梵	om muni muni munivare abhiṣicanta me sarvatāhagatāh māp [nama] ca sarvavidyābhīṣekair
Skt.	om muni muni munivare abhiṣicanta māp sarvasattvāṃś ca sarvatāhagatāh sarvavidyābhīṣekair

摩訶跋折囉 _{二合}	筏遮姥陀囉 _{二合} 姥地剛 _{二合} 底 _{丁翻反} 六 怛他揭多頡唎 _{二合} 駄 _上 耶七地瑟恥 _{二合} 多跋折囉 _{二合} 莎呵八
摩訶伐折囉	迦伐遮暮陀囉 暮地剛 帝 六 怛他揭多囉 _{維以切} 哩駄 耶七地瑟恥 多伐折諱 莎呵八
mahāvajra-	[ka]ṭācamudrānudrite tatāgatahrdaya- dhīṣṭitavajre svāhā
mahāvajra-	kavacamudrānudritiṭṭh sarvatāhagatahrdaya- dhīṣṭitavajre svāhā

⑤灌頂印呪

K.	唵一阿蜜唎二合二多伐唎二合二	嚩囉	嚩囉	嚩囉	鉢囉	鉢囉	毘輪 _{二合} 提 _四	鉢	鉢	五	沵吒	沵吒	沵吒 _六 莎呵 _七
S.G.M.	唵一阿蜜唎	多二伐唎	嚩囉	嚩囉	鉢囉	鉢囉	毘輪 _四 提 _五 哈	哈	哈	六	沵吒	沵吒 _七	莎呵 _八
還梵	on amṛavare		vara	vara	pravaravīśudhe		hūm hūm phat	phat	phat		phat	phat	svāhā
Sk.	on amṛavare		vara	vara	pravaravīśudhe		hūm hūm phat	phat	phat		phat	phat	svāhā

⑥結界呪

K.	唵一阿蜜唎二合二多毘盧羯囉二	揭婆 _{二合} 嚩 _三 利 _{二合} 尼 _{上三}	阿羯囉沙 _{二合} 尼 _{上四}	鉢	鉢	五	沵吒	沵吒	沵吒 _六 莎呵 _七
S.G.M.	唵一阿蜜唎	多毘盧羯囉二	揭婆	嚩	利 _三 尼 _四	尼 _四	哈	哈	五
還梵	on amṛavilokini		garbharakṣaṇi	ākarsaṇi		hūm hūm	phat	phat	phat
Sk.	on amṛavilokini		garbhasuprakṣaṇi	ākarsaṇi		hūm hūm	phat	phat	phat

⑦佛心呪

K.	唵一毘摩詰二	闍耶伐底 _{丁翻} 三	阿蜜唎帝 _四	鉢	鉢	五	沵吒	沵吒	沵吒	沵吒 _六 莎呵 _七
S.G.M.	唵一毘摩詰二	闍耶伐底 _三	阿蜜唎帝 _四	哈	哈	五	沵吒	沵吒	沵吒	沵吒 _六 莎呵 _七
還梵	on vimale	jayavati	amṛte	hūm hūm	hūm hūm	phat	phat	phat	phat	svāhā
Sk.	on vimale	jayavare	amṛte	hūm hūm	hūm hūm	phat	phat	phat	phat	svāhā

⑧心中心呪

K.	唵ー	跋囉	跋囉	三跋囉	三跋囉	印地 ^{音記} 唵 ^合 耶 ^四 毘 ^四 輪 ^五 達 ^五 爾 ^五	餅 ^六	噌噓	遮隸 ^七	莎呵 ^八
S.G.M.	唵ー	蘇嚕蘇嚕	跋囉	跋囉	三跋囉	三跋囉	唵	噌噓	遮隸 ^七	遮隸 ^七
還梵	om	[suru suru]	bhara	bhara	saṃbhara	[saṃbhara]	indriyavīśodhani	ruru	[cere karu]	sāhā
Skt.	om		bhara	bhara	saṃbhara		indriyabalavīśodhani	ruru	cale	sāhā

凡例

- ・表の一行目と二行目には、宝思惟訳『大随求陀羅尼經』(T.20, No.1154)の高麗版 (K.) と宋・元・明版 (S.G.M.) のダラニの原文を掲載した。
- ・表の三行目には、その選集テキストを示した。高麗版 (K.) に存在し、宋・元・明版 (S.G.M.) に欠けている語句は()で表記し、高麗版 (K.) で欠けており、宋・元・明版 (S.G.M.) に存在している語句は[]で示した。その他の異同については脚注に表記した。
- 例) sat(ya)vati は、高麗版 (K.) では satyavati とするが、宋・元・明版 (S.G.M.) では satvati とする。
- 例) [miri miri] は、高麗版 (K.) では欠けているが、宋・元・明版 (S.G.M.) にはあることを示している。
- ・表の四行目には、比較のため Skt 校訂テキストを Hidas (2012) から引用し並記した。